

今後の松くい虫対策の基本的な考え方について

森林づくり推進課

1 松くい虫被害と対策効果の見える化の取組み

県は今年度より、航空レーザ測量、衛星画像（H25～30）を活用し、アカマツ林・被害状況を図化し、被害拡大の推移及び対策の効果の見える化の取組みに着手する。見える化を踏まえて今後の被害ルートの予測等、きめ細かな対策の推進に資する情報を整備し、市町村と共有・連携して被害対策に取り組む。

「松くい虫被害対策の見える化」を通じて県民との情報共有、コミュニケーションを深め、県民の信頼と協力のもとで松林の保全に取り組む。

2 松くい虫対策のパッケージ対策とは

効率的に対策を進めるために、これまでの「守るべき松林」とその「周辺松林」（対策対象松林）の区分に加え、未被害地から激害地の被害程度に合わせた対策事業の組合せ等をわかりやすく示したものを市町村においては、県とも協議して進めていただきたい。



【パッケージ対策】

区分	未被害	微害	拡大	激害
守るべき松林	予防【薬剤散布(リスクコミュニケーション必須)等】	予防【薬剤散布(リスクコミュニケーション必須)等】	伐倒駆除	被害林再生(森林税事業) ○チップ化 里山整備利用地域 ○枯損木伐採 ○植栽
重要な保安林 災害履歴地・治山施工地 被害拡大防止の要所等	保安林整備(治山事業) 本数調整伐(間伐)等	保安林整備(治山事業) 樹種転換(枯損木等伐採、植栽)、土留工等		
周辺松林	樹種転換	伐倒駆除、樹種転換		被害林再生(森林税事業) ○チップ化 里山整備利用地域 ○枯損木伐採 ○植栽
その他松林		樹種転換		
道路等ライフラインの倒木対策 (上記区分に関わらず)	枯損・危険木処理		森林づくり推進支援金(森林税事業)等	

全国統一的な支援
(国庫補助)

県独自の支援
(森林税)



伐倒駆除と薬剤空中散布(無人ヘリ散布)を組み合わせる「微害」状態を維持している箇所の例(散布開始から4年経過)

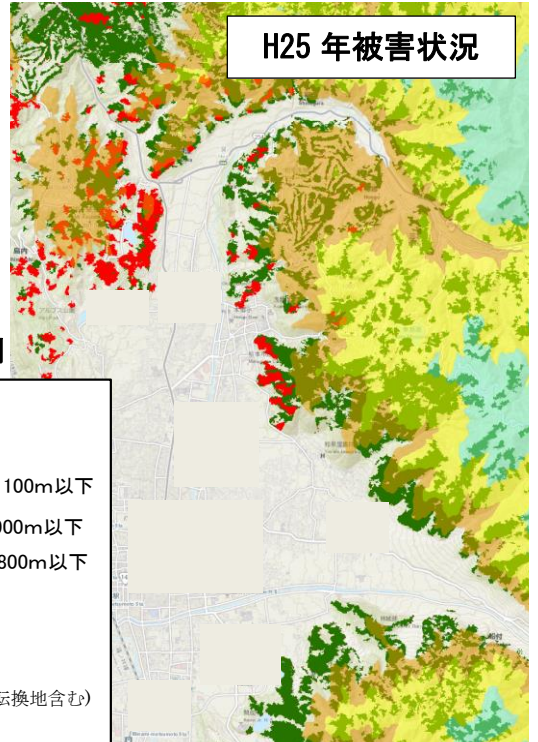
3 効率的に対策を進めるために

項目	市町村が行うこと	県が行うこと
「守るべき松林」の絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> 守るべき松林の優先順位づけ マツ以外の樹種で代替できない森林 保安林、災害防止上重要な森林 等 	<ul style="list-style-type: none"> 松くい虫被害の見える化「松くい虫被害状況マップ」の作成、市町村への提供
防除対策	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布における住民とのリスクコミュニケーションの実施 薬剤散布、伐倒駆除、樹種転換等を組み合わせた効果的な防除の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 対策の要所の絞り込み等、市町村が行う防除実施計画策定への支援 重要な保安林における治山対応
事後評価	<ul style="list-style-type: none"> 防除対策の効果の評価 	<ul style="list-style-type: none"> 被害状況、対策の効果等の県民への情報発信

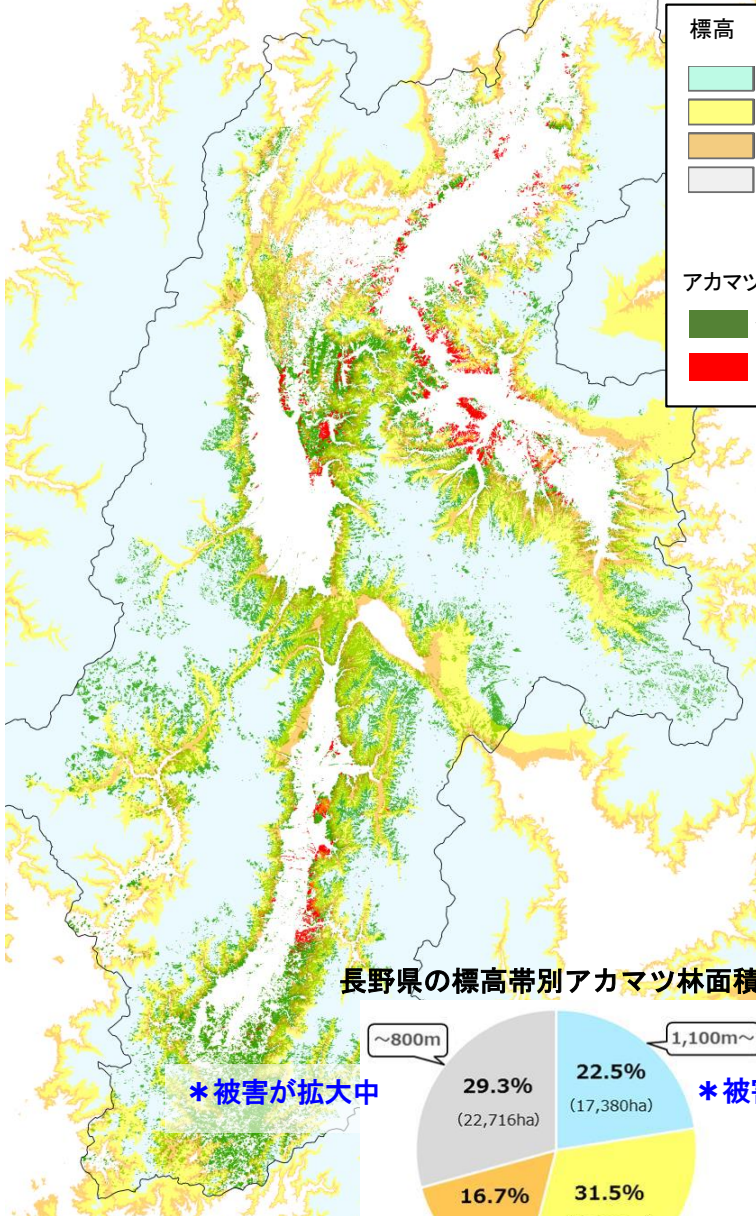
「松くい虫被害の見える化」・図例（参考）

松くい虫被害の見える化（H30年度着手）

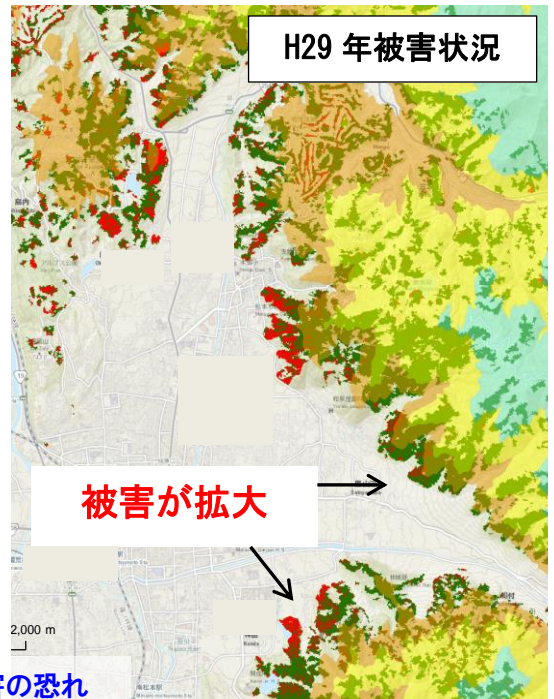
- ① 航空レーザ測量データを利用し、アカマツ林を正確に表示
- ② 衛星画像から枯損したマツを読み取り、被害状況図を作成
- ③ H25、H27、H29、H30の衛星画像から、被害拡大経過を「見える化」 ※今秋に市町村に提供予定



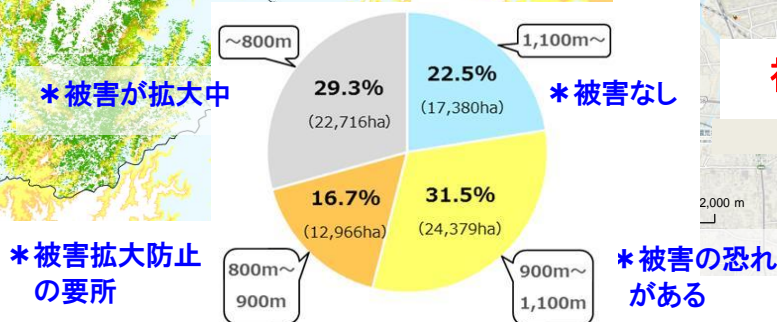
長野県のアカマツ林及び松くい虫被害地分布
(H25年時点の被害状況)



4年経過
標高 800m 以下で被害が拡大



長野県の標高帯別アカマツ林面積



「見える化」による考察・今後の取組み

- 標高 800m 以下の地域で被害が進んでいる。
- 今後は、斜面の向き、道路からの距離、風向き等の条件と被害の拡大傾向との関連等について、被害状況マップの作成と合わせて分析し、被害拡大予測に取り組む。